

十六世紀フランスのある早朝、情人のしとねから脱け出して自分の城へ密かに帰途を急いでいたフランソワ一世が、教会の前を横切った。と、そのとき、教会では、朝のミサが始まり、鐘の音があたり一帯に流れた。すると、王は、ためらもなく教会の中に歩み入り、敬虔にミサを捧げたという。

この逸話は、一体、何を物語るのだろうか。フランス人の不道徳性あるいは、キリスト教徒の破廉恥ぶり？ フランスの歴史学者リュシアン・フェーブルやフリップ・アリエスは、そのいずれでもないという。つまり、この当時の人々は、こうした二つの感情、つまり現在ならば、密通の快楽と神への敬虔さという、明きらかに相反する感情を、格別相反するとも矛盾するとも感じることもなく、平然と同居させ、両立させていたという、歴史的事実を物語るエピソードなのだ。確かに、人間とは一箇の統一され

た自我主体であるなどという觀念にとらわれなければ、様々な価値感や感情がまろやかに仲よく同居していて、それが交々表われたり隠れたりしても、全然不思議はない。そもそも、矛盾とか分裂とかいう概念は、同一性との関係で存在しているのだから。

私もは、いつの頃からか、人間の心のありようは普遍的であると思ひこんでしまったのではないだろうか。例えば、子どもへの愛情は歴史を通じて流れ続けた真理であるなどと、心のどこかで信じている。だから、「子どもが好きかどうかわからない」という母親に出会ったりすると、世の終りが訪れたかのように怯え、うろたえる。然し、私もが、子どもを可愛いと感じている感情もまた、歴史性を持つのだとしたら……。時代はいま変り目に来ている。子どもへの感情は、どのような変貌を遂げるのだろうか。

(H)

幼児の教育 第八十二巻 第十一号

十一月号 ◎

定価三〇〇円

昭和五十八年 十月二十五日 印刷
昭和五十八年 十一月 一日 発行

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 本 田 和 子
発行人

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都港区三田五ノ一二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所
所フレイベル館にお願いいたします

*万一製品不良品がございましたら、おとりかえいたします。